

Case 13

地域に開かれた子育て支援活動 児童学科「幼児グループ活動」の取り組み



◀ プレイルームでの幼児グループの様子

Step 1

児童学科では、大学内のプレイルームを拠点とし、近隣の地域（町田市、八王子市、相模原市等）に開く子育て・発達支援活動として、幼児グループ活動を実施しています。この活動は、就園前の2、3歳児を対象に、学生と教員がともに地域の親子とかわりの時間を持ちます。20年以上にわたり継続し、多くの方々に利用されてきました。



Step 2

この活動は、参加する子どもや親への対応だけでなく、参加する学生の成長にも有効な活動として展開しています。学生が生涯発達や人格形成の基礎を育み、豊かな人間関係を体験できる集団体験の場、そして共に学び育ちあう活動の場としての役割を果たしています。



Step 3

この活動は、1年間に20回（1回90分）開催しています。3段舞台のあるプレイルームで参加者全員が行う親子合同活動と、子どもたちと親たちそれぞれに分かれて行う分化活動の時間があります。また、学内の畑でラディッシュ栽培をしたり、焼き芋やクリスマス会など季節を味わう行事等も行っています。



topics

幼児グループ活動は、児童学科の教育研究活動のひとつですが、地域の方たちの継続的かつ定期的な関わりの中で進められています。そのため、地域の方に大学の教育研究活動を知ってもらう貴重な機会となっています。

data

- 担当教員 吉川晴美教授、小野真理子教授、田尻さやか助教
(現代生活学部児童学科)
- 実施期間 1987年4月～現在